

教科等名：理科

グループ：高等部 I コース理科 2 グループ

事例報告者：教員E

1 研究グループの概要

[教員] 9名

小学部 1名	}	理科専科 2名
中学部 3名		社会専科 1名
高等部 5名		

[対象] 高等部 I コース
理科 2 グループ・社会 2 グループ
生徒 8 名 教員 3 名

2 事例研究の経過

①実態把握

②授業実践

③学習の様子

④考察、授業改善

【Iコース】

		月	火	水	木	金
	8:55	登校				
1	9:10 ～ 9:30	日常生活の指導				
	9:30 ～ 10:00	数学	国語	数学	国語	数学
2	10:05 ～ 10:55	国語	作業学習	外国語	家庭/ 生活単元学習	音楽
3	11:00 ～ 11:50	職業	作業学習	保健体育	家庭/ 生活単元学習	総合的な 探究の時間
4	11:55 ～ 12:30	保健体育/ 職業/ 日常生活の指導/ 自立活動	保健体育/ 情報/ 日常生活の指導/ 自立活動	保健体育	保健体育/ 選択保健/ 日常生活の指導/ 自立活動	保健体育/ 日常生活の指導/ 自立活動
	12:30 ～ 12:45	日常生活 の指導	日常生活 の指導		日常生活 の指導	日常生活 の指導
給食 昼休み						
5	13:25 ～ 14:15	作業学習	社会・理科/ 生活単元学習	特別活動	作業学習	美術
6	14:20 ～ 14:45	作業学習	社会・理科/ 生活単元学習	日常生活 の指導	作業学習	美術
				下校 14:30		
	14:45 ～ 15:10	日常生活の指導			日常生活の指導	
	下校	15:15	15:15		15:15	15:15

1 学期 理科予定

①	4月22日(火)	導入、天気の種類
②	5月13日(火)	天気マーク①
③	5月20日(火)	天気マーク②
④	5月27日(火)	振り返り、マーク
実習		
⑤	6月17日(火)	天気予報①
⑥	6月24日(火)	天気予報②
⑦	7月1日(火)	天気カルタ
⑧	7月8日(火)	まとめ

2. 3 学期 理科・社会予定

①	9月2日(火)	理科(災害①)
②	9月9日(火)	理科(災害②)
③	9月16日(火)	理科(災害まとめ、テスト)
実習		
④	10月14日(火)	社会(公共施設①)
⑤	10月28日(火)	社会(公共施設②)
⑥	11月18日(火)	社会(公共施設③)
⑦	11月25日(火)	社会(公共施設④)
⑧	12月9日(火)	社会(身近な産業①)
⑨	12月16日(火)	社会(身近な産業②)

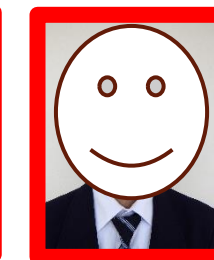
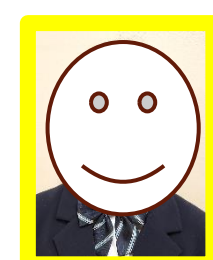
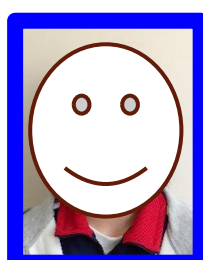
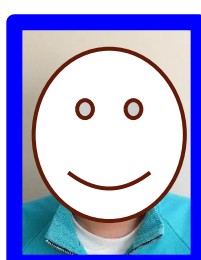
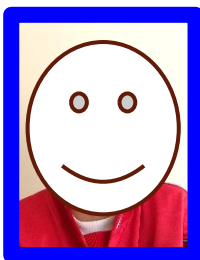
理科の年間指導計画

R7	<ul style="list-style-type: none">○気象（自然の事物、現象、水の循環）○災害と防災（自然災害の原因、防災への理解）
R6	<ul style="list-style-type: none">○水溶液の性質○てこの規則性
R5	<ul style="list-style-type: none">○人の体のつくりと運動（体の部位、骨と筋肉など）○身の回りの生物（生物の分類、食物連鎖など）

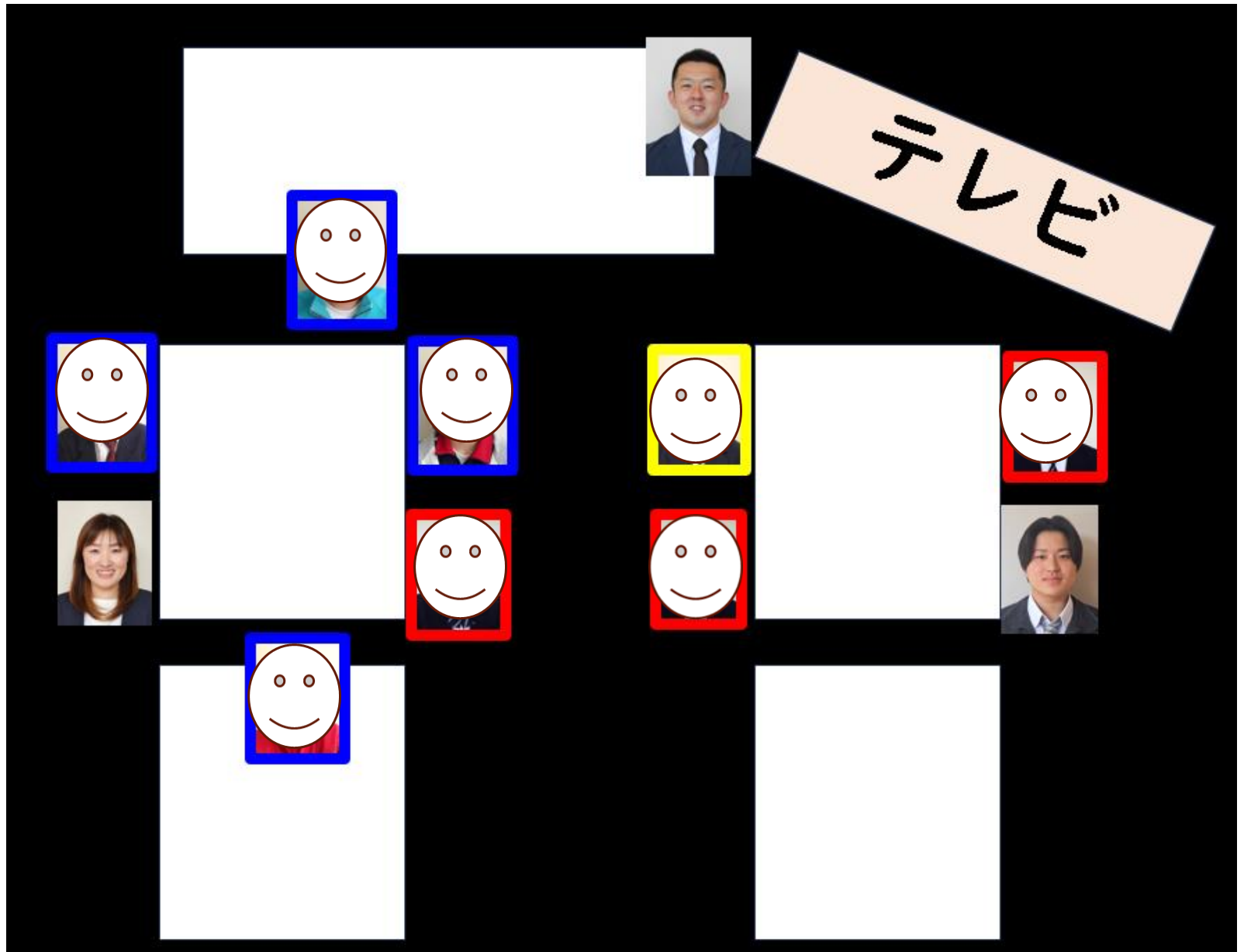
実態把握②

【グループの生徒の様子】

- ・ 8名の生徒がおり、どの生徒も**発語はある**。問いに対し、**単語で答えたり**、**こだわりにより筆談**により表現したりする生徒もいる。
- ・ 人前で発表することに**苦手意識がある生徒**もおり、発表までに時間がかかる生徒もいる。
- ・ 授業に対して意欲的に取り組む生徒がいる一方、**消極的な生徒**もいる。



座席配置



授業実践

【教科名】理科

【単元名】天気について知ろう

【単元設定の理由】

1 単元観

- (1) 身近な天気に関心をもって生活してほしい。
- (2) 天気予報に興味をもち、天気マークの意味を理解してほしい。

2 指導観

- (1) 天気の種類とマークに絞り、天気予報を意識できるように授業構成する。
- (2) 生徒の発言・動きの機会を多く作り、主体的に授業に参加できるように心がける。

【学習指導要領上の段階】 高等部 1 段階

【単元の目標】

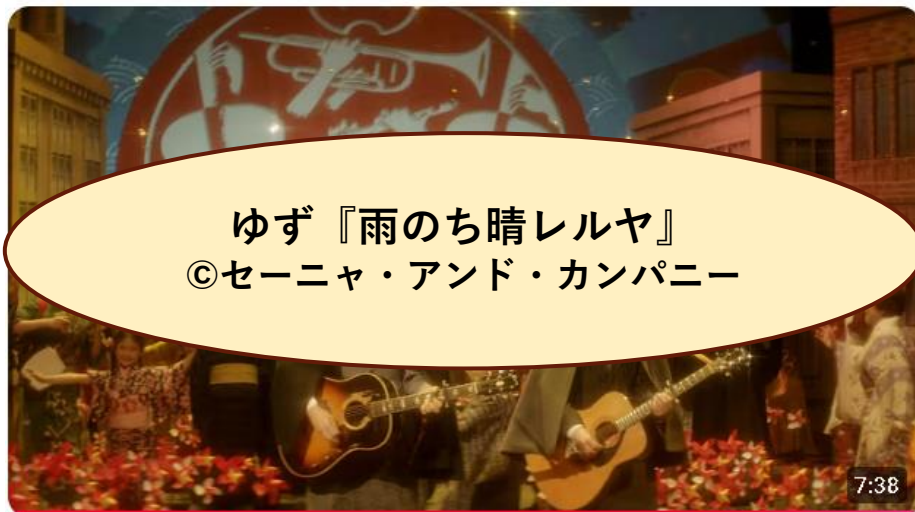
知	天気の種類やマークを理解することができる。
思	写真から天気を考えたりマークから天気を読み取ったりすることができる。
学	学習した内容を日常生活と関連付けて考えようとしている。

実践①

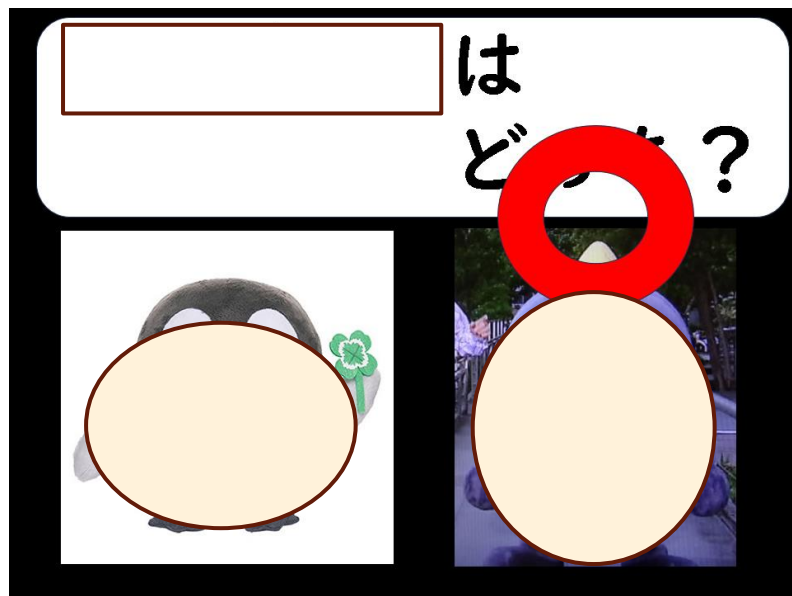
【本時の内容】 天気マークを知ろう

【本時の目標】

知	天気のマークを理解することができる。
思	写真やマークを元に天気の種類を考えることができる。
学	学習した内容を日常生活と関連付けて考えることができる。



・授業前には、天気に関する曲を流して生徒のやる気を高められるようにした。



・授業の導入として、毎時間「天気に関するクイズ」を行い、生徒が関心を高められるようにした。



① 天気の種類を知る

- ・ 写真を見て「晴れ」「雨」「ひょう」などの種類を答える学習。
- ・ 写真を表示し、生徒一人ずつが**天気を答える学習**を行った。

理科(天気について)

1. 勉強すること

べんきょう

☀️ ☂️

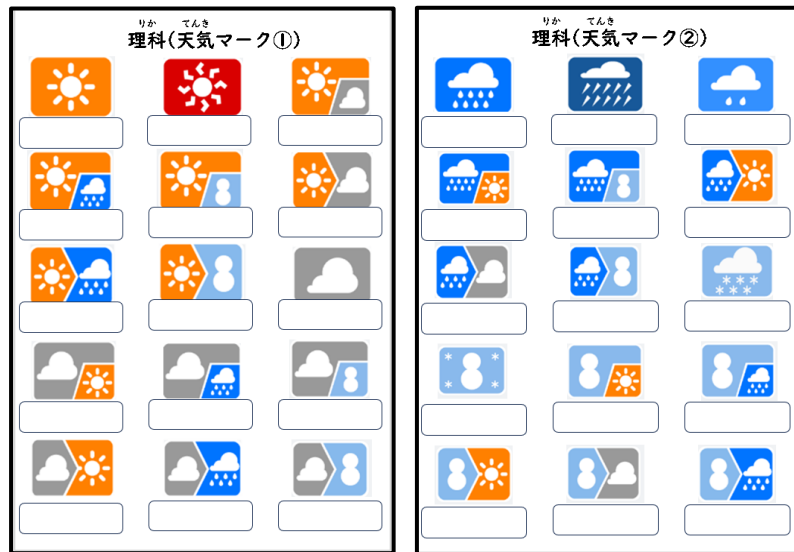
2. 天気の種類

てんき しゅるい

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	

○プリントにまとめる

- ・ 今回は 種類の天気の種類を学習した。
- ・ **写真と言葉が一致**することを目的に行った。



②天気マークを知る。
○30種類の天気マークをプリントにまとめる。
・プリントにまとめたら、マークと名前が一致できるように、**何度も言って覚えられるようにした。**



○「マーク」と「名前」が一致できるように、繰り返し学習した。
・マーク→「名前」を選ぶ。
・言葉→「マーク」を選ぶ。

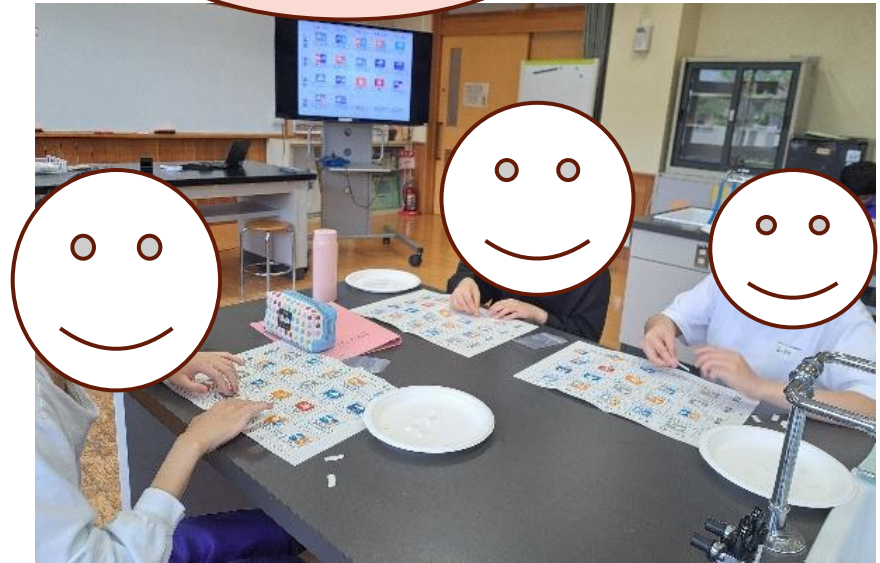
既習の知識



新しい知識



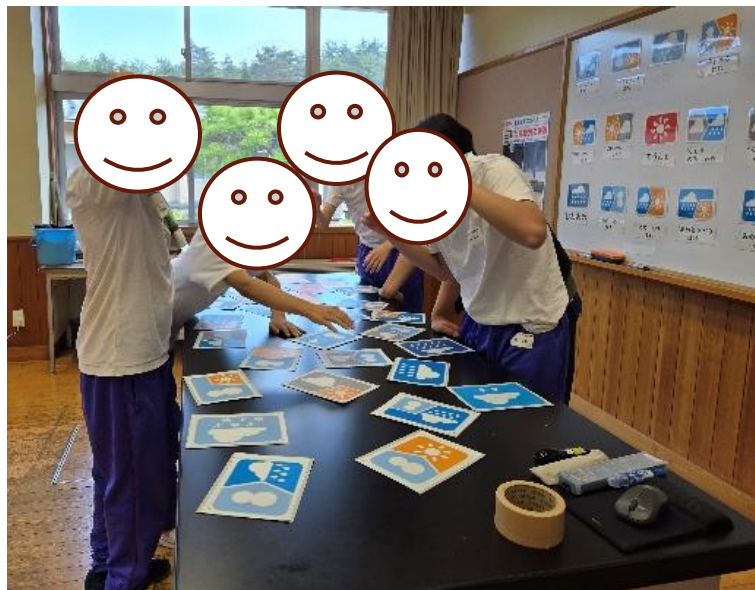
	5日(月)	6日(火)	7日(水)	8日(木)	9日(金)
北海道	くもり時々雪 0 6	雨のち雪 0 7	晴れのち雪 1 8	晴れ時々雪 1 8	みぞれ 3 9
東京	晴れのち雨 13 19	晴れ時々くもり 13 18	くもり時々雪 1 9	雨 9 14	大雨 10 15
愛知	くもり 14 23	雨のちくもり 16 24	晴れ 19 28	猛暑 28 37	雨時々晴れ 20 32
福岡	くもり時々晴れ 12 24	くもり時々雨 9 17	雨時々雪 2 10	晴れ時々雨 9 14	雨のち晴れ 8 16



	5日(月)	6日(火)	7日(水)	8日(木)	9日(金)
北海道	くもり時々雪 0 6	雨のち雪 0 7	晴れのち雪 1 8	晴れ時々雪 1 8	みぞれ 3 9
東京	晴れのち雨 13 19	晴れ時々くもり 13 18	くもり時々雪 1 9	雨 9 14	大雨 10 15
愛知	くもり 14 23	雨のちくもり 16 24	晴れ 19 28	猛暑 28 37	雨時々晴れ 20 32
福岡	くもり時々晴れ 12 24	くもり時々雨 9 17	雨時々雪 2 10	晴れ時々雨 9 14	雨のち晴れ 8 16

③ 天気予報をつくる。

- ・言葉に合う「マーク」を選んで貼る。
 - ・最高気温や最低気温を読み取る。
- 「6日の愛知の天気と最高気温は？」



④天気マークカルタ 「聞いてとる」

- ・教師が「天気マーク」を読み上げて、それに合うマークをとるゲーム。
- ・授業のまとめとして、みんなで楽しめるように実施した。

①成果

- ・多くの生徒が天気の種類とマークを理解することができた。（マークを見て名前を答える、名前を聞いてマークを選ぶ）
- ・以前より主体的に授業に参加してくれているように感じた。
- ・「昨日天気予報見ました！」 「今日、くもりです」など天気に関心をもってくれる生徒もいた。

②課題

- ・今回は天気の種類とマークに絞って学習した。「雲のでき方」や「雲の量に対しての天気」などの内容が扱えず、やや薄い内容になってしまった。

①成果

- ・「見たものの名前を答える」「名前に合ったマークを考える」「聞いた言葉に合うマークを選ぶ」など学習方法を多く活動を取り入れられた。
- ・授業内で、一人3～4回の発言の機会をつくることができた。（クイズ、言葉、マーク貼り）

②課題

- ・この授業によって「言語能力」を高めることができたかと言われれば難しかった。単語の表出をねらい活動が多かったが、より言語能力を高めるためにはどのような学習方法が良いのか。

集団討議

議題

言語能力を高めるための工夫

メンバー（理社グループ）

教員A, 他8名

良いところ

興味・関心がある題材設定

歌やカルタなど、子供に興味のあることを題材にしているところ。

歌詞に天気がある歌がよい。テーマソング→気分が上がる、記憶の定着

実態に応じた思考・判断・表現の方法→→言語能力の向上

必要な情報をカードなどで選択できるようにしたこと。語彙を増やすことにもつながる。

単語で答えたり筆談で答えたり、発表の仕方にバリエーションがあり、児童生徒にあった言語能力の高め方に対応できたのではないか。

生徒に合わせた表現方法で発言機会を作っていたところ。

学習内容の精選

たくさんある学習内容から子ども（グループ）の実態に合わせて内容を精選してわかりやすい。

段階を踏んだ学習
学習内容の定着

天気の種類→天気マーク→予報と段階を踏んで学習していくことで、学習内容の定着が図られ、日常生活にも繋がっている。

適した教材（マーク・カード）

消極的、自分で考えることが苦手な生徒がいるので、マークの学習は分かりやすく良かった。

ニュースで使われているマークを使用したところ。

「のち」「ときどき」などのことばを図と併せて学び、知ったり、理解したりする学習ができた。

生徒の様子に合わせて発言の機会を作っていることで、言語力の向上につながっている。

おそらく晴れ、雨、曇りのカードの弁別はほぼ全員の生徒ができています。晴れのち雨、晴れ時々曇りなどが新しい知識でしょうか？

課題等

日常生活へのつながり

天気の情報から、その日の行動や持ち物などにつなげることができるように。

学んだことを生活の中で使えるといいですね。

天気予報を見て、服装や行動をどのように調整するかなどを考えると生活によりつながる。

知識を得た上で、実際のお天気ニュース等を見てみると、さらに生活につながっていくと思いました。

気温も含めた天気予報を基に持ち物や服装を考えるワークがあってもよい。

降雨予測などを使って天気予報と実際の天気を比較しても面白いかと思います。

マークから天気を予想して、実際のニュース等の映像で答え合わせすると、どんな言い方をするかわかるかも？

普段の生活と関連づけて、なんでだろう？どうなるんだらう？と思える発問が大切な。

授業内容・方法の工夫

理科の面白さである実験を取り入れてもよかった。（

月の天気から地域や季節を考える活動はどうでしょうか。

社会科の実授業践に向けて
（納得解・最適解）

- ・授業内で課題設定するなどし、日常生活へのつながりをより明確にしていく。
- ・引き続き、歌、カルタ、カードなど、興味・関心を図りつつ、言語理解につなげる題材設定を行う。
- ・引き続き、生徒に応じた表現方法を取り入れ、発言の機会を設定することで、語彙を増やしたり、表現の力を身に付けたりしていく。

集団討議による考察

①成果

- ・歌、カルタ、カードなど、興味・関心を図りつつ、言語理解につなげる題材設定を行えている。
- ・生徒に応じた表現方法を取り入れ、発言の機会を設定することで、語彙を増やしたり、表現の力を身に付けたりしている。

②課題

- ・授業内で課題設定するなどし、日常生活へのつながりをより明確にしていく。

教科等名：社会

グループ：高等部 I コース社会 2 グループ

事例報告者：教員E

前回の研究をうけて

①

色々な表現方法を保障した授業づくり
(言葉、手を挙げる、貼る、選ぶ)

②

生徒の生活につながる指導内容の精選
(身近な公共施設と使用目的、ルールやマナー)

③

生徒が考える、気付く授業作り
(映像から何がいけないのか考える、施設の使用目的を考え、予想する)

実習

①	10月14日(火)	社会 (公共施設①)
②	10月28日(火)	社会 (公共施設②)
③	11月18日(火)	社会 (公共施設③)
④	11月25日(火)	社会 (公共施設④)
⑤	12月 2日(火)	社会 (公共施設⑤)
⑥	12月 9日(火)	社会 (山梨の産業①)
⑦	12月16日(火)	社会 (山梨の産業②)

社会の年間指導計画(2・3学期)

① 公共施設や公共物の役割

(地域の公共施設・施設利用の目的・マナー)

② 身近な流通・生産・消費

(山梨県の産業・消費者に届くまでの流れ・物流の方法)

③ 社会のニュース

(日々のニュース)

毎回の授業の
冒頭で扱う

○公共施設や公共物の役割

(地域の公共施設・施設利用の目的・マナー)

①地域の公共施設を知る。

②施設の使用目的を**考える**。

③ルールやマナーについて**考える**。

④単元のまとめ

(公共施設ビンゴ、テスト)

授業実践 【教科名】 社会

【単元名】 公共施設や役割を知ろう

【単元設定の理由】

1 単元観

- (1) 自分たちの住む市町村の公共施設と役割を知ってもらいたい。
- (2) ルールやマナーについて関心を高めてほしい。

2 指導観

- (1) 生徒にとって身近な話題や場所をとりあげ、興味関心をもって取り組めるようにする。
- (2) 生徒の表現方法を多く保障し、主体的に授業に参加できるように心がける。

【学習指導要領上の段階】 高等部 1 段階

【単元の目標】

知	身近な公共施設や公共物の役割と必要性について知ることができる。
思	公共施設や公共物の利用のルールについて考え、表現することができる。
学	自分の生活と関連付けて捉えようとしている。

実践②

【本時の内容】 公共施設を使う目的を考えよう

【本時の目標】

知	地域の公共施設を知ることができる。
思	公共施設の使用目的を自分で考えることができる。
学	学習した内容を日常生活と関連付けて考えることができる。

導入


- ・授業の導入では、その時期にニュースになっている話題をクイズ形式で扱った。ジャンルが偏らないように、スポーツ、季節行事、動物など色々なものを取り入れた。

ぜんこく ひがい おお どうぶつ
全国で被害が多い動物はどっち？




くま さる

ハロウィンはいつ？



10月31日 10月29日

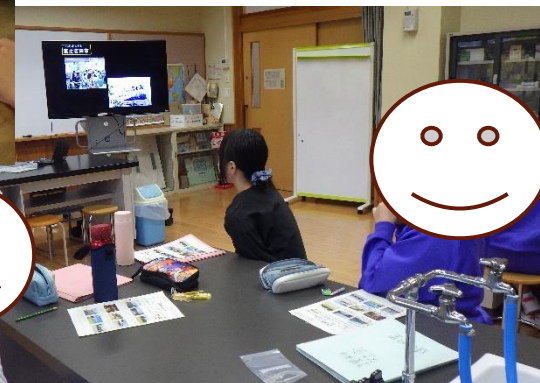
きかんげんてい
の期間限定メニューは？



サムライ つきみ月見



①地域の公共施設を知る。
・河口湖、富士吉田市、西桂町、忍野村の公共施設をパワポで紹介し、生徒はプリントに記入した。



公共施設とは・・・ (定義を唱和)

実践②





②クイズ形式（2択）で公共施設がどちらかを選ぶ学習を行った。
できるだけ全員の生徒を指名できるようにした。



②公共施設の役割を考える。

- ・市役所、体育館、警察署、消防署、病院、水族館などの使用目的を生徒が考える学習。
- ・まずはプリントにシールをのせ、自分で予想する。その後、パワポで答え合わせをする。

こうきょうしせつ 公共施設のそれぞれの役割				やくわり		
 ふじよしやくしょ 富士吉田市役所	 ふじほくらうたいくかん 富士北麓体育館	 ふじよしだりつとじょかん 富士吉田市立図書館	 ふじよしだけいさつしょ 富士吉田警察署	 ふじごこしょうぼうはんぶ 富士五湖消防本部	 みつとうげ 三つ峠グリーンセンター	 ふじかわかみ 富士河口湖町リユースセンター
 ふじ けいすい さとすいずいかん 富士の湧水の里水族館	 かわかみりんせんほーる 河口湖円形ホール	 ふじざくら しえんがっこう ふじざくら支援学校	 にしきつちこうらうど 西桂町民グラウンド	 ふじよしだりつぼうやういん 富士吉田市立病院	 ふじさんミュージアム	 みちのえき ふじよしだ 道の駅 富士吉田

③公共施設の役割についての確認

- ・ホワイトボードに施設の名前を貼り、使用目的を生徒が考えて当てはまるところに貼る学習を行う。



予想



ボードで
確認



答え合わせ





人の方をみてくしゃみをする。





③マナーを考える。
・映像とプリントでマナーに違反している箇所を生徒が予想する学習。



席に荷物を置く。

なにがいけないの？

公共のマナー

	自分のかんがえ	こたえ
① 		
② 		
③ 		
④ 		

授業者の考察（教科の力）

①成果

- ・地域の公共施設を知ることができた。
- ・自分の住む地域に関心をもつことができた。
- ・2つを比べて公共施設を選ぶことで、公共施設の定義を感じることもできた。
- ・施設の名前と合わせて、使用目的を考えることで学習がやや深まった。

②課題

- ・「生活の中で生きる学習」を授業で実践するための授業づくりを考える。

①成果

- ・「公共施設の定義」などをみんなで唱和したり、カッコ抜きにした部分を読んだりすることで知識につながった生徒がいた。
- ・施設名だけでなく、「使用目的」を「読む」ことで考える活動が生まれた。

②課題

- ・授業の中で「言語能力」を育むためには、どのような学習方法があるのか。

集団討議

議題

「生活の中で生きる学習」を授業で実践するための授業づくりにおいて大切なこと

メンバー（理社グループ）
教員A, 他8名

良いところ

実態に応じた思考・判断・表現の方法

プリント、カード、pp、などを用い、予想する、選ぶ、読む、書く方法などで様々な実態の生徒に対応している。置いて予想することで安心して取り組める。

自分で答えを考える時間を設けることで、考えるペースの遅い子も主体的に授業に参加できると感じた。

○×に効果音を使っており、いつもSTとして楽しく参加させてもらっています（探求の時間）

クイズ形式の様々なニュース

クイズ形式で楽しみながら学ぶことで、生徒の中でより印象に残り、いろいろな場面で思い出しやすくなる。

様々なジャンルから内容を設定することで、生徒の興味関心を広げることができる。

日々のニュースを毎時間クイズ形式で楽しみながら行うことで、ニュースに興味をもち、テレビで見る機会が増えるのでは

生活に密着した身近な題材選定

生活に密着した生徒の居住地やみじかな話題を取り上げている。

公共施設と生徒が実際に使用しているお店や施設を比べることで、イメージしやすい。

生徒の身近な場所を取り上げていて、興味もちやすく、普段の生活の中で学習したことを思い出しやすい。

課題等

使用用語の再検討

「公共の施設」と「公共のマナー」で今後少し混乱しそうな気がします。

知識と体験

言語的な知識+実際にやってみる（体験）と生活の中で生きてくるのでは。

体験利用設定の難しさ

公共施設の「利用」に関しては、実際に利用することで経験として積みあがっていくと思うので、授業（校内）だけでは難しいと思う。

限られた時間、曜日で実際に体験的な学習を設定するのは難しい。



授業実践に生かせる工夫

生徒に気になったニュースを出してもらうのもよい。

公共施設利用の事前アンケートをとってもよいか？または、授業を受けて、行った、通ったなどをきいてもよいか？

教師の利用例などを紹介してもよいか？

公共施設の利用に関して、実際の利用フォームを見てもよいかと思いました

日常生活で公共施設を利用する場面に関するクイズ等がまとめとしてあっても面白いのではないかと感じた。

（生徒自身が利用できることが一番良いですが...）正しい知識を得た上で、家族等の身近な人に実際に話を聞いたり、利用している人の様子を見たりする等すると、さらにイメージを深めていけるのではないかと感じた。

今後の授業実践に向けて（納得解・最適解）

- 「公共の施設」と「公共のマナー」で混乱する可能性があるため、今後取り組むマナーについて使用用語の再検討が必要である。
- 言語的な知識＋実際にやってみる（体験）と生活の中で生きてくる。
- 実際の施設利用は難しい面もあるため、授業内で次の案を参考に工夫してみる。
 - ・公共施設の利用フォームを見してみる。
 - ・身近な利用者に話を聞く機会を設定する。利用の様子を見る。
 - ・日常生活における施設利用についてクイズ形式で取り上げる。
 - ・生徒に利用状況を確認する。
- 引き続き、実態に応じた思考・判断・表現の方法を工夫していく。
- 引き続き、様々なニュースをクイズ形式で取り上げ、生徒が興味・関心をもてるようにしていく。
- 引き続き、生活に密着した身近な題材を選定していく。

①成果

- ・ 授業の中で多くの表現方法を用意することができた。
- ・ 授業冒頭でニュースに関するクイズを行うことで生徒の興味を引き出すことができた。

②課題

- ・ 授業で使用する用語に気を付ける。
(公共施設、公共のマナー)
- ・ 言語的な知識と体験的な学習のバランス。
- ・ より生活に近い場面を想定した授業。
- ・ 生徒の良さを引き出せる教材と活動の設定。

集団討議

議題

全体を通して「教科力の向上」
についての気付き

メンバー
生活グループ
理社グループ

良いところ

的確な実態把握

生徒の実態、身に付けさせたい力をしっかり抑えている。

知識の習得

知識の獲得まで丁寧に繰り返し指導している。見習いたい。

考えさせる時間、答え合わせの時間を取り入れると、生徒により内容が浸透すると思う。指導上時間に追われがちだが、大切なことと思う。

生活に生かす視点

理科も社会も生活に生かす視点を考えながら授業づくりを行っている。

学習のポイント

学習のポイントを絞ってねらいを明確にもって指導している。

抑えるべき内容を抑えながらとても楽しい授業になっている。

工夫された教材

教材が美しい。情報が適切に整備されていて見やすい。

身近な先生が出ている動画は興味がわきやすく見ていだけでも面白いと感じる。マナーについて考えやすく、楽しくとりくめそう。

小→中→高
学習の系統性

小・中学部で学習した既習の知識をもとに、新しい知識を広げている。学習の系統性がなされている。

その後を見据えた指導

生徒の実態に合わせて、教材が準備されており、知識を習得しながらその後の生活を意識した指導ができています。

卒業までに必要とされる知識や技能を考えながら単元設定がされている。

課題等

公共のマナーについて、控えるべき行動とともに望ましい行動を考えさせるのもよいのでは。

学習したことが、日常生活の中に出てきている。天気の話がコミュニケーションを取る良いきっかけになるということを知ることができるとよいとおもいました。

集団討議

議題
全体を通して「言語能力の向上」についての気づき

メンバー
生活グループ
理社グループ

良いところ

様々な学習活動・方法

様々な方法で定着が確認されている。

プリント学習だけでなく、操作をする活動やゲームなどを取り入れ、言葉の理解を深めたり、表現の幅を広げたりしている。

生徒の実態に合った様々な学習活動が言語能力を高めている。

様々なものの名前を写真などを用い理解しやすくしている。比べること、名前を読むことも定着のための方法

ポイントを読んで復唱することでフィードバックしやすくなる。

発言の機会の保障

3～4回発言の機会が得られている。伝えたい気持ちが育ち、言語能力を高めている。

生活とのつながり

生活に密着した題材(動画)で生徒にとっても思考しやすかったのではないかと思う

日常生活につながる教材を使っており、語彙力の向上にもつながっている。

生徒にとって身近な出来事や場所を題材にして、生活の中に汎化できそう。

課題等

自由に話す・書く活動

身の回りの事象やニュースについて、自分の感じたことや考えなどを自由に話したり、書いたりする経験ができるとさらによいのでは。

身の回りのことなど、自分の感じたことや考えなどを自由に話したり、書いたりする経験ができるとさらによい。

演じてみる

ロールプレイ的に実際にマナーの良しあしを演じさせ、生徒に判断させる指導方法もあると聞いたことがあります(実態に応じてではありませんが...)

3 成果と課題

①成果

- ・各学部の学習指導要領や授業計画、指導内容及び段階の一覧表を確認することで、小→中→高の学習の系統性を考えることができた。実践報告から、小・中学部での既習の知識を基に高等部で新しい知識を広げ、その後の生活を意識した実践が行われ、学習の系統性がなされていることが確認できた。

- ・事例検討を通して、実態に応じた思考・判断・表現の方法の工夫が言語能力の向上につながっていることが検証できた。それぞれが自身の指導を振り返り、言語能力の育成について考え、今後の指導の参考とすることができた。

- ・言語能力を高めるために日常生活へのつながりが課題として出された後、生活の中で生きる学習について協議を行い、ブレインストーミング法での検証を有効に積み重ねることができた。

- ・身近な題材を選定したり、具体的に生活に生かす指導について考えたりすることで、教科の特質をとらえることにつながった。特に社会科は生活との繋がりが密接であり、生活に生かす視点が不可欠であった。

②課題

・高等部の理科と社会の事例を検討する中で、それぞれの特質を踏まえた効果的な単元設定など、教科等横断的な指導の工夫についても検証できるとさらによかった。

・生活の中で生きる学習について協議する中で、言語的な知識と実際の体験が生活に生かされるという意見が挙げられた。教科の力を付けるためにも言語的な活動と体験活動を設定する重要性が再確認された。生徒の実態に応じた知識教授と体験活動の効果的な設定やバランスなども考慮して、今後も授業実践を行いたい。